

ユニバーサルサービス政策委員会(第38回) 事業者ヒアリング ご説明資料

2024年12月20日

アジェンダ

令和6年度第4四半期(令和7年1月～3月期)に適用するLRICモデルの算定方法について
今回の諮問対象となっている3つの検討事項における弊社の意見を説明させていただきます

<検討事項>

1. 第8次PSTN-LRICモデルによる補填額算定値と第9次IP-LRICモデルによる補填額算定値の加重平均値
2. 第9次IP-LRICモデルの適用に際し、実際にはメタル回線で設置されている加入者回線を光回線とみなすかどうか
3. モデル外補正の実施の有無(第9次IP-LRICモデルのアクセス網の設備配置ロジック)



令和6年度第4四半期の電話のユニバーサルサービス交付金の算定方法の在り方(弊社意見)

検討事項① 第8次PSTN-LRICモデルによる補填額算定値と第9次IP-LRICモデルによる補填額算定値の加重平均値

以下の理由から、第9次IP-LRICモデルを100%として算定することによいと考えます

- ・ 2025年1月までにIP網への接続ルート切替完了を予定していること
- ・ 音声接続料においても当該期間は、第9次IP-LRICモデルを100%として算定される整理となっていること

検討事項② 第9次IP-LRICモデルの適用に際し、実際にはメタル回線で設置されている加入者回線を光回線とみなすかどうか

令和6年度第4四半期(令和7年1月～3月期)においては、引き続きアクセス回線は継続してメタル回線が設置されている状況に変わりなく、音声接続料の算定との整合(当該期間はメタル回線を採用)も鑑みれば、実際に設置されている回線種別(メタル回線)とすることが適当と考えます

検討事項③ モデル外補正の実施の有無(第9次IP-LRICモデルのアクセス網の設備配置ロジック)

令和6年度第4四半期(令和7年1月～3月期)においては、同一年度内において異なるモデルを適用することは実務上過度な負担となることに鑑みれば、FRT設置台数のモデル外補正は、継続することもやむを得ないと考えます